

# 「経営分析」事業活動収支計算書(\*a)

【単位 千円】

【単位 千円】

H28年度

H27年度

## ①経常費収支差額比率

【計算式】 (経常収入-経常支出) / 経常収入

【評価】 高い方が良い

【意味】 比率が高いほど自己資金が充実し、経営に余裕をもたらす。

【指標】 10%以上が望ましい。

	短大	高校	中学	法人を含む全体
経常収入	301,009	548,111	107,883	986,409
経常支出	282,889	526,997	145,220	972,049
経常収支差額比率	6.0%	3.9%	-34.6%	1.5%

	短大	高校	中学	法人を含む全体
経常収入	211,314	556,769	79,828	863,756
経常支出	219,697	553,190	108,182	897,760
経常収支差額比率	-4.0%	0.6%	-35.5%	-3.9%

## ②人件費比率

【計算式】 人件費/臨時収入を除いた経常収入

【評価】 一定の比率以下に抑えられているか。

【意味】 経常収入の何%を人件費として支出しているか。

【指標】 50%未満は秀逸とされ、60%以上継続なら要改善。

	短大	高校	中学	法人を含む全体
臨時収入を除いた経常収入(*b)	223,065	548,111	101,920	902,502
人件費	147,275	403,838	123,273	684,851
人件費比率	66.0%	73.7%	121.0%	75.9%

	短大	高校	中学	法人を含む全体
臨時収入を除いた経常収入(*b)	182,314	556,769	79,828	834,756
人件費	123,324	421,337	95,274	650,865
人件費比率	58.4%	75.7%	119.3%	75.4%

## ③教育活動資金収支差額比率

【計算式】 (教育活動資金収入-教育活動資金支出) / 教育活動資金収入

【評価】 高い方が良い

【意味】 年間の教育活動の結果として、いかほどのキャッシュフロー（自己資金）を生み出しているか。負なら、本業が赤字。

【指標】 20%以上は秀逸とされ、マイナスが継続なら要改善。

	短大	高校	中学	法人を含む全体
教育活動資金収入	249,969	548,111	99,350	922,490
教育活動資金支出	236,758	526,966	145,220	925,887
教育活動資金収支差額比率	5.3%	3.9%	-46.2%	-0.4%

	短大	高校	中学	法人を含む全体
教育活動資金収入	211,014	555,949	79,828	857,322
教育活動資金支出	219,663	545,462	108,182	889,998
教育活動資金収支差額比率	-4.1%	1.9%	-35.5%	-3.8%

## ④積立率

【計算式】 運用資産/要積立額

【評価】 高い方が良い

【意味】 継続的に保つべき資産に対し、実際どの程度保有しているか。

【指標】 100%以上保有する。

	短大	高校	中学	法人を含む全体
運用資産	-	-	-	2,652,979
要積立額	-	-	-	2,821,906
積立率	-	-	-	94.0%

	短大	高校	中学	法人を含む全体
運用資産	-	-	-	2,588,544
要積立額	-	-	-	2,787,460
積立率	-	-	-	92.9%

## ⑤流動比率

【計算式】 流動資産/流動負債

【評価】 高い方が良い

【意味】 短期的な支払い能力を示す。

【指標】 200%以上は秀逸とされ、100%未満は資金繰りに窮す。

	短大	高校	中学	法人を含む全体
流動資産	-	-	-	465,384
流動負債	-	-	-	117,263
流動比率	-	-	-	396.9%

	短大	高校	中学	法人を含む全体
流動資産	-	-	-	306,911
流動負債	-	-	-	88,298
流動比率	-	-	-	347.6%

\*a ほかに資金収支計算書があり、集計の違いから、両者は必ずしも一致しない。

\*b 臨時収入とは、施設設備の補助、経営強化支援等、恒常的に得られない収入